



会設立からの歩み

28 男鹿街道

道路わきの灌木を除去

9月17日(水)、参加者16名、風の松原南部の男鹿街道わきの灌木の除去作業を行った。

これは、秋田県山本地域振興局のオリジナルプランである「この松をみんなの力で未来まで」活動支援事業としての補助を受けて実施したものである。

作業は道路から幅5mほどの地域に生える灌木を対象にし、事前に看板を立てて、灌木の切り取り方、処理方法の講習を行ってから、午前中を目安に汗を流した。

灌木除去作業

は、さらに19日と21日を予定したが、あいにくの雨で19日は中止になった。

21日の日曜日は、18名の参加者で作業を実施した。



灌木除去地に立てた手製の看板

きれいに灌木除去された松林は、風通しと見通しがよくなり、すっきりした景観になった。

29 いこいの広場

周辺の灌木除去

10月8日(水)からの3日間は、いこいの広場周辺の灌木除去に取り組んだ。

これも山本地域振興局のオリジナルプラン補助金を活用したもので、除去した灌木類は風の松原外に搬出しなければならぬので白神森林組合に委託することにした。

8日は16名の参加者で、ナタやノコギリを手にしながらやぶに入り、胸まで生い茂っているノイバラや灌木を切り倒してまとめる作業に取り組んだ。

10日(金)には18名が参加し、12日(日)は17名の参加者で9時30分からスタートした。特に日曜日には、湊城第三小学校の児童が5名も加わり、和気あいあいの仕事になった。「この松をみんなの力で未来まで」のオリジナルプランに合致し、まさに、未来を担う子供が参加したことは嬉しいことであった。

中に入れな
いほどであ
ったやぶも、
この作業が終
わるときれい
になくなり、
参加者たち
はやぶと格
闘した充足
感に満ちあ
ふれたいた。



小学生をまじえた記念写真

30 松くい虫の被害木調査

11月26日(水)、20名の参加者に東北森林管理局米代西部管理署の職員14名を加えて、松くい虫の被害木調査を実施した。

いこいの広場に集合した参加者に、橋本佐内・森林管理署長から「11年度に確認された風の松原の松くい虫被害は、昨年、相当量に上った。冷夏の今年はやや勢いが弱いものの、皆さんから被害木調査の協力を得て、伐倒跡除に向けた早期の処置を取りたい」とあいさつがあった。

その後、奥島屋忠法次長から調査方法の内容、段取りの説明があり、葉の変色、枯れ具合、さらに幹に傷を付けてヤニの出具合いを見るといった松くい虫の被害の判別方法の説明があった。

次に、被害木を発見し、確認した後に行う胸高直径を輪尺で測る方法や伐倒作業の目印になる黄色のテープの巻き方、本数合算に必要なナンバーテープの張り方などの説明を受けた。

作業は1班3人編成で、40m内外を担当する方法で展開された。



作業の説明を受けている参加者たち

やぶの中をこぎ分けての作業になり、参加者たちは足元の悪さに苦しみながら松くい虫の被害木を探した。

幸い好天に恵まれた初冬の半日を、汗だくになりながら風の松原から被害木を排除し、健全な松の木を後世に残すための準備に取り組んだ。目印を付けた被害木は後日伐倒することになった。

30 アカゲラ休憩用の箱

組み立て作業に協力

11月25日(火)、能代市農林水産課から、アカゲラ休憩用の箱作成への協力要請があり、6名が参加し、木の学校で100個の箱を組み立てた。キツツキ科のアカゲラはくちばしで木の幹をつついて中にいる昆虫やその幼虫を食べるので、マツノダラカミキリの駆除が期待されている。



木の学校でアカゲラ休憩用箱を組み立てる

31 黒松にからみつく

つるきり作業

12月25日(木)、参加者20名に森林管理署職員2名を加えて黒松にからみついたツルの除去作業を実施した。

つるきり作業は、松くい虫被害の防止策の一つとして、松から養分を抜き取り、樹勢を弱める要因を取り除こうと企画されたものである。

防寒服に身を包んだ参加者は、市営陸上競技場の本部に集合し、橋本佐内管理署長のあいさつを受けて、ナタやノコギリ、選定バサミなどを装備して林内に踏み入った。

黒松にからみついたツルの繁茂にはあらためて驚かされた。その太さや黒松にくっついて離れない強靭さに手を焼き、ツルが枯れるのを待つより方法はなかった。



中には直径15cmを超えるツタウルシもあり、幸い冬はウルシの樹液も少ないのだが、恐る恐る切り取る姿も見えた。

前回の松くい虫被害木の調査にあたった会員からは「被害木の黒松には、必ずといってツル類が絡み付いて樹勢をそいでいる」という話があった。

黒松にからみついたツル

事務局から

浅野 ミヤ

平成15年度後半の作業の中で、まず気が付くのは、初めて国有林の中にノコギリやナタなどを持ち込んで作業をし、整備したことだと思います。

道具類(ノコギリ・選定バサミ)は秋田県の支援の下に、当会として20組をそろえることができました。いつでも、誰でも必要なときには使えるようになり、道具類のない人も参加できるようになりました。

10月の灌木を除去した「やぶきり作業」は、場所が広いの広場入り口に面しているだけに「もっと早くとかかるべきであった」という声やしきりにありました。

3日間の作業では、一部分しか整備できなく、残ったところが気になっています。

12月の「つるきり作業」は、11月の松くい虫被害木調査のときに見られたツルを、落葉した後に除去したいという森林管理署からの要請によるものでした。



作業を終えてボランティアの汗を拭き、笑顔のあいさつ。どちらの作業も道具を手にして実際にやってみると、風の松原の様子がよく分かります。黒松が「早く助けてくれ」と言っているようで、早急に整備が必要であることを痛切に感じました。

また、「作業は自分では無理だ」と思っている方も多いようですが、実質1時間から2時間で作業は終わり、「決して無理しない」、「各自の体力に合わせて」を守るようになっていますので、むしろ普段は経験できない風の松原での新しい発見があります。来年度はぜひもっと多くの人々に参加していただきたいと思っています。

伊藤忠夫先生の講演会

聴講ができます

2月5日(木)、午後2時から元静岡大学教授の伊藤忠夫先生の講演会が、シャインプラザ平安閣能代を会場にして開催されます。仮演題は「風の松原を救うために」で、会員は聴講できますので御参加下さい。